

平成21年5月14日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2006～2010

課題番号：18401027

研究課題名 (和文) 国家と人種の壁を越えて：日米関係と活動家・学者・兵士の環太平洋ネットワーク

研究課題名 (英文) Conceiving Race, Nation, and Gender: YWCA/YMCA, Activists, Scholars, and Soldiers in the Making of Pacific Rim Relations, 1920s to 1945

研究代表者 H Brian Masaru (ハヤシ ブライアン マサル)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・准教授

研究者番号：10314165

研究分野：歴史学・移民学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：移民、アジア系アメリカ人、第二次世界大戦、日米関係、OSS

## 1. 研究計画の概要

敗戦後の20年ほどのうちに、アジア系の人々は「白人」市民同様の社会的地位を築いてアメリカ経済のメインストリームにも足場を獲得し、「模範的マイノリティー」とも称されるようになった。このようなアメリカにおける人種関係や国民意識の変化—特にアジア系アメリカ人を巡る変化—は、なぜ起こったのであろうか。アジア系アメリカ人の「白人化」または「国民化」ともいえるこのプロセスは、変容を続ける合衆国の「人種」、「ジェンダー」、「ネーション」の概念や国際関係とどのように関わっているのであろうか。

このプロジェクトは、戦後アメリカにおける人種関係と国民意識の変化に、環太平洋諸国の男女エリート—社会活動家、知識人、軍人等—の国家を超えた交流がどのように関わってきたかを、トランスナショナルな視座で歴史的手法を用いて明らかにしようとするものである。このプロジェクトが取り扱う時代は1920年代から1945年までの間で、主な研究対象となるのは、当時米国のアジア外交を司る政府関係者がアジア理解に必要な文化的知識や言語能力を有する人材として注目していた英米宣教師とその子孫、アジア系移民とその子孫、更にはこれらの人々と交流を持った日本人、中国人、朝鮮人である。特に、戦間期に研究対象となる人々に交流の場を与えた国際組織—汎太平洋同盟 (Pan-Pacific Union, PPU)、太平洋問題調査委員会 (Institute of Pacific Relations, IPR)、汎太平洋婦人協会 (Pan-Pacific Women's Association, PPWA)—とともに、1930年代から第二次世界大戦中にこのグループの人々を活用しようとした米国連邦政

府機関—戦時情報局 (Office of War Information, OWI) と戦略局 (Office of Strategic Services, OSS)—に注目する。そして、これらの国際組織や政府機関を運営した欧米系男女エリートとそれに参加したアジア系男女エリートの人種観、ジェンダー観、国民観とその変容を解明し、それが合衆国の人種関係や国民意識、更には外交政策にどのような影響を及ぼしたかを研究する。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 2006年度に、ハヤシはワシントンDCに学者の書いたOSSに関連する資料を拝見し、Military Records Personnel Center (St. Louis)にあるアメリカ軍の中に、東アジア関連したトップ人物 (Joseph Stilwell, Claire Chennaultなど)の史料を収集し、分析した。その後、シカゴ大学にある人文系研究者 (Robert Redfield, John Embree, など) についての史料を拝見し、分析した。また、UCLAに保存されている中国専門家であるJoseph Spencerの史料を収集した。安武は、UCLAとUCRにあるアメリカYMCAに史料を収集し、分析した。その後、日本女子大学にある女性運動団体の史料を見つけ、収集した。

(2) 2007年度には、ハヤシは2007年9月から2008年1月までの4ヶ月間に、アメリカに滞在し、ワシントンDCの国立公文書館をはじめ、UCLAとUSCの図書館において、史料収集を行い、2007年10月1日と11月28日に、Yale UniversityとUniversity of Southern Californiaで、the Dilemmas of Loyalty: OSS and Asian Americansをテーマに発表した。安武は、2007年8月1日から7

日まで、オランダにおいて、欧米婦人の率いる婦人団体の資料収集を行い、8日から11日まで、ブルガリアで開催された International Federation for Research in Women's History の会議で研究結果を発表した。また、今までの研究を通じて、ハヤシと安武は、アメリカ西海岸にいる研究者のアジア系アメリカ人に対する研究がアメリカ東海岸に大きな影響を与えたことを解明した。

(3) 2008 年度には、ハヤシはアメリカ東海岸より西海岸を中心に、第二次世界戦争中 OSS に属したアメリカ系アジア人について、昨年リサーチ基礎の上に、Hawaii に居る OSS 士官であったアジア系アメリカ人またはその遺族(4人)をインタビューし、その他の関連公文を収集した。その後、日系アメリカ人、中系アメリカ人と韓国系アメリカ人の背景に関連する史料の収集のため、Stanford University, University of California (Berkeley), University of California (Los Angeles), the University of Southern California, University of Michigan と東海岸にある Washington DC 公文図書館に出張し、この間に、OSS 士官であったアジア系アメリカ人をインタビューした。2009 年春に、第二次戦争中、中国戦場にある OSS 士官の背景をリサーチするため、中国南京にある中国第二歴史档案館と上海档案館、上海図書館で資料を収集した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。今年度中に、こまかいところを確認する上で、執筆中の本を仕上げる予定である。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 2009 年 4 月の AAAS (Association for Asian American Studies) と 2010 年 2 月の AHA (American Historical Association) 学会での発表を通して、今までの研究結果を議論するとともに、研究スピードをあげる。

(2) メールなど通信方法を利用し、関係研究者と当時関係者の意見とアドバイスを求める。

(3) OSS の当時関係者を探し、インタビューをする。

(4) 関連する史料を収集する。

(5) (1) から (4) までの結果及び 4 年間でわたって収集した資料・史料を分析し、最後の結論を本と論文の形で今年と来年中に公開する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 安武留美 "The First Wave of International Women's Movement from a Japanese Perspective: Western Outreach and Japanese Women Activists during the Interwar Years." *Women's Studies International, Forum* 32 No.1, pp13-20, 2009.

② 安武留美 「汎太平洋婦人協会の設立と戦間期の活動—女性たちのキリスト教越境ネットワーク」、『同志社アメリカ研究』Vol.45, pp67-82, 2009.

[学会発表] (計 2 件)

発表者(代表)名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所を記入すること

① HAYASHI BRIAN MASARU "The Dilemmas of Loyalty: OSS and Asian Americans", Yale University, 2007. 10. 1, Yale University.

② HAYASHI BRIAN MASARU "The Dilemmas of Loyalty: OSS and Asian Americans", Association for Asian American Studies, 2007. 11. 28, University of Southern California.